今年は梅雨が長いですね。7月下旬になっても、太陽はなかなか顔を見せてくれません。確か昨年の7月は猛暑だったような気がします。それでもこの通信が届く頃にはきっと梅雨も明けているでしょう？

さて、足掛け4年かけて歩いてきた「カミーノ・スペイン巡礼の道」、大西洋まで歩いてたどり着きました。と言っても、もう3年前ですが・・・これで「フランス人の道」と言われる巡礼の道の報告は最終章となりました。長らくお付き合いいただき、ありがとうございました。

歩き通した900km

スペイン巡礼の道

2016

1日目　今日から地の果てフィステーラ（フィニステラ）に向かって出発します。

大聖堂の横の階段を降り、通りをしばらく行くと公園。そこにフィステーラとムシアまでの距離が書かれた標識がありました。約90キロ。

きょうはネグレイラという町までの22キロ。私たちにとっては長丁場です。登り道で振り返ると大聖堂が見送ってくれていました。

これまでの巡礼路＝フランス人の道は巡礼路の道標や宿などがよく整備されていて、ほとんど不安なく歩けたのですが、サンティアゴから先（フィステーラ、ムシアまでは巡礼者も極端に少なくなり、当然のことながら道標や宿も整っていないと聞いていたので、一抹の不安を抱えながら、歩き始めました。

まぎらわしい矢印に違う道に誘われたりしながらも、なんとかネグレイラの町に入りましたが、なかなかホテルが見つかりません。細い路地のようなところを入っていくと下に大きな車道、その向かい側に大きな看板でＭＩＬＬＡＮとあり、それが目的のホテルでした。かなり大きなホテルで、ここに一泊、夕食、翌朝食もここで頂きました。

2日目　きょうはガイドブックに書かれた基本コースでは何と34キロも歩くのです。とても無理なので、20キロのところにあるアルペルゲに泊まる予定にしていました。

しかし！ネグレイラの町を出るときに、ちょっと間違えました・・・さらに13キロ地点のバルでカーニヤ（生ビール）を飲んでしまい、そのバルはアルベルゲも併設と聞いてしまったので・・・ヴィラセリオ泊。

3日目　最初の2日は、強烈な夏の日差しでしたがきょうは曇り。歩きやすいです。途中から小雨。坂の上から右手に湖（ダムも？）見えるらしいのですが、雲かな？湖かな？・・はっきりとはわかりませんでした。

21キロがんばりました！しかし、8～9キロのザックは、長時間歩いていると肩にずっしりときます。

きょう泊まったアルペルゲはペンションもレストランも併設。オルヴェイロア泊

海が見えた！

4日目　きょうは海辺の町セー（Cee）まで20キロ。

朝、併設のレストランでコーヒーとトーストとオレンジジュースの朝食。8時発。曇り時々霧雨。歩きやすい。歩き始めて1時間でバルで休憩。その後30分でまたバル。通過しようとしたら、お店のお兄さん「この後15キロ、バル快無いよ！」

そう言われちやあね・・・霧で視界は良くないですが、すごくいい道が続きます。途中に飲み物や果物のテント。ドネーション（寄付）でした！そして・・・霧で見えないかと思っていたら・・・正面に**海～～　大西洋～～！**

疲れも吹き飛びます。

途中で日本の方3人に会って、いろいろお話しました。コンポステーラからは巡礼者がぐっと少なくなるので、まして日本人に会えるとはびっくりです。と言っても私たちは超遅いので、先に行っていただきました。が、セーの町に着いたら、同じアルペルゲに宿泊されていました

大西洋に浸かる

5日目　いよいよきょうは最果ての地フィステーラへ－

朝食は近くのバルと思っていましたが、開いていません。前に買っておいたバナナとマドレーヌでとりあえずのしのぎ。途中素晴らしいロケーションのホテルのテラスに入れたので、トーストとカフェコンレチェ。

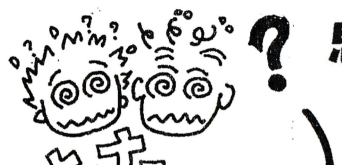
アップダウンを繰り返し、フィステーラの町がどんどん近づいてきます。あと7キロ。海岸沿いの小さなお店で休憩していたら、巡礼者が2人、靴を脱いで波打ち際を歩いて行くではありませんか！

それを見てしまったら、もちろん私たちも！

距離にして2キロほど？夏の海とは思えない位、かなり冷たいですが、すご～く気持ちがいい。砂浜だけど、波で足の下の砂が掬われていく感じがないので歩きやすいです。なぜかこのときは、ザックの重さを全然感じなかったのが不思議。

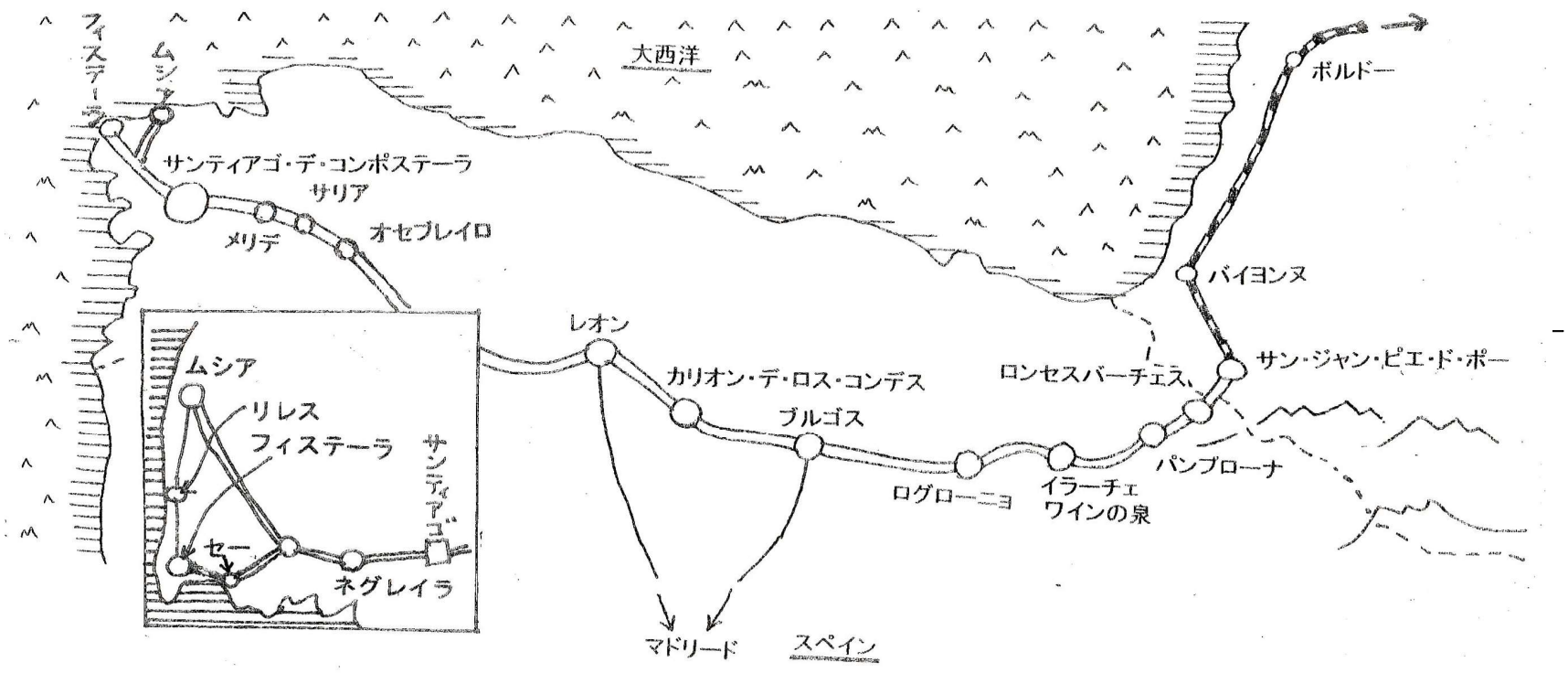
フィステーラに到着すると、

うらへつづく



思い出のバルセロナの巻

この2016年の巡礼はすごいおまけがありました。10年近く前、初めての海外旅行で訪ねたバルセロナで友人と会う約束です。コンポステーラにバスで戻った翌日、ラバコージヤという飛行場からバルセロナへ。友人とカタルーニア広場で無事会うことができ、再会を祝して乾杯♪美酒に酔いおいしい料理に舌鼓を打ちました。翌日は教えてもらった市場を見学。市場の前に並んだレストランの一つに入り魚介料理をいろいろ注文。どれもおいしくて、周平は大満足。サグラダファミリアもピカソ美術館も40年前の印象とはかなり変わっていましたが、再訪できて感激。出国中止という大事件から始まったこの年の巡礼は、終わってみればとても充実の旅となりました。（帰りの飛行場でも「たらい回し事件」などあったものの、無事解決！？）



表からつづく

きのう会った日本の方にまた再会♪

最果ての海に沈む夕陽

フィステーラの新しいアルベルゲにチェックイン。夕食を一昨年行った漁師食堂で頂きました。それから前日知り合った、関西から来た3人の方十日本人女性十イタリア人男性と7人で最果ての海に沈む太陽を見に行きました。フィステーラの町から1時間ほど歩いで4キロ先の岬の突端まで行きます。日没は午後10時20分。9時には到着。0キロ地点の標識でみんなで写真を撮り合い、そしてワインなど傾けながら、しばらく待ちます・・・

標識には0kmの文字

昔の巡礼はここまで歩いてきて、今まで着ていた物を燃やし、大西洋の海に浸かって再生した、と言われています。

今は洗濯もできるし、高級素材の衣類なども多く、燃やすことはなくなったそうです。少し前までは帽子や靴下等を燃やす人もいたらしいですが、火事になったこともあって、燃やすのは完全禁止とのことです。

夕陽が沈みます。

美しい～・・・

この夕陽を見るために歩いできたんだね・・・そんな気持ちになりました。

カミーノマジック

6日目　フィステーラから海沿いに北へ28キロのところにムシアという町があります。ここも巡礼路の終点です。私たちがこの道か歩くきっかけとなった映画「星の旅人たち（原題The Wey）」では主人公はこのムシアまで歩き、亡くなった息子と和解をするのです。

多くの人は1目で歩きますが、私たちはちょうど半分位のリレス（Lires）というところで泊まる予定。

リレスの手前3キロ位のところで脇道に入り（ＢＡＲの看板があっだので・・・）、しばらく行くと草が生い茂って道がわからなくなりました。かなり歩いてしまったけれど、とにかく分かれ道まで戻ろうと疲れた身体にムナ打って歩き続け半した。

空腹、喉の渇き、そして「遭難」の文字さえチラッと頭をかすめた頃、若いカップルが現れました。すがるように道を尋ねるど、なんと先導しでくれたのです。美しい海が正面に見えるほんとうに素晴らしい道でした！

そしで、ほんとうに素晴らしいＢＡＲでした！海に面した素晴らしいＢＡＲで飲んだカーニヤ（生ビール）は、疲れた体だけでなく心にも沁みわたりました。ヤコブ様がまた助けてくれたような気がしました。

この返礼道では考えられないようなことが起こるとか？それをカミーノマジックと呼ぶそうです。

ついに（AT ALAST）！

7日目

ついに辿りつきました！フィスデーラからムシアへ！フランスのサンジヤン・ピエド・ポーから歩き始めて９００キロ。ここがゴールです！がっしりと握手。

いつまでも海を眺めていたいような気持ちです。少し離れたところに外国人の数名のグループが手話で話しでいる様子だったので、うろ覚えの「うれしい」という手話で話しかけてみたら、、手をひっぱられてスマホを渡されました。「全員の写真を撮ってくれ」ということらしいです。撮ったあと、みなさん「ありがとう」と日本手話で。ありがとうの日本手話はお相撲さんが勝ったときの手形を切る形。日本独自のものだそうです。その手話でお礼を言ってくれたのです♪このこともカミーノの忘れられない思い出です。あしたはバスに乗ってコンボステーラまで戻ります。今回の歩き旅はこれでフィナーレ。

３年がかりで歩いたサンティアゴ巡礼の道「ガミーノ・デ・フランセーズ（フランス人の道）」全９００キロ、歩き通しました。（完）

ついに到着したムシアの海岸で